

様式2

5-11		主題	利用者と偕 <small>とも</small> に生きる「とっかえる」の取り組み			
生活の質の向上		副題	～居心地のいい環境を目指して～			
ともに生きる						
研究期間	10ヶ月	事業所	養護老人ホーム 偕生園			
発表者：松尾 としこ（まつお としこ）		アドバイザー：外部学識者				
共同研究者：鈴木良・天宮陽子・五十嵐龍男						
電話	042-541-1236	メール	kaiseien-soudanin@doho-gojyokai.com			
FAX	042-546-8284	URL	http://doho-gojyokai.com/2kaiseien.html			
今回発表の 事業所や サービスの	社会福祉法人同胞互助会を母体とする養護老人ホーム偕生園は、昭和34年3月に定員50名の施設として開設した。平成12年に全面建替えをし、特別養護老人ホームと併設し、現在、定員140名である。					

《研究前の状況と課題》

H20年1月

分煙化のため、各フロアにあった3ヶ所の喫煙所を1ヶ所にまとめ、残りの2ヶ所を談話室に変更した。ところが喫煙所だった頃は賑やかだった場所も、談話室にしたところ、

- 談話室には、いつも誰もいない。
- 職員からみても、談話室が殺風景な印象であった。

また、施設の建替え前の大部屋とは違い、居室環境が快適になった影響で、利用者が居室に閉じこもりがちになり、他者との交流や関わりが希薄となってしまった。

H20年4月

「くらし安全委員会」が発足する。

- 談話室の有効な活用方法の検討。
- 閉じこもりがちな利用者の活性化を促すための工夫。

H21年9月

「利用者参加型の環境改善」に発想転換する必要がある為、課題整理を行なう。

《研究の目標と期待する成果》

- ① 有効に活用されていない空間を改善し、利用者が立ち寄り易い場所にする。
- ② 利用者が環境作りに参加する委員会を通じて利用者の意見を聴き、生活環境の快適さ、安心さ、居心地良さを追求して「環境の良さ=生活しやすさ」に繋げる。
(「くらし安全委員会」から、新たに、「とっかえる委員会」が発足する。)
- ③ 委員会の中での利用者の意見が現実の形となり、変っていく過程において、メンバー同士の交流を深め、一体感が出てきた。
- ④ 利用者が「言っても変わらない」と諦めないで、ひとり一人の意見が大事にされる施設になるよう取り組んだ。

《具体的な取り組みの内容》

- ①20年4月 「くらし安全委員会」が発足。
- ・利用者にアンケートや聞き取りを行なう。
 - ・談話室の改善に向けて、談話室の模型を作り展示する。
 - ・利用者から談話室の活用方法について意見を募るが反応なし。
談話室の壁紙の張り替え、調度品の設置などを職員が提案した。しかし、具体化しないまま、改善に至らず1年が過ぎた。
- ②21年6月 外部の学識者からアドバイスをもらう。
- ・認知症のために、環境作りを先駆的に取り組んでいる施設を見学した。
- ③21年9月 利用者参加型の委員会とする。
- ・利用者を巻き込んだ改善に発想の転換をする。
 - ・参加する利用者を募集し、委員会の名前やキャラクターを考える。
 - ・カエルのキャラクターを作成する。
 - ・「とっかえる委員会」が誕生する。
委員会は月に1～2回開催する。
- ④会議で話し合い
- ・施設の中で今、何が一番改善したいか等、意見を出し合う。
 - ・委員それぞれが気になるところを写真に撮り意見を出す。「もっと使いやすく」「危なくなないか」「生活しやすいか」を視点に、出来るところからしていく。

《取り組みの結果と評価》

<取り組みの具体例>

①居室

2人部屋の入口にカーテンはあるが、「個人のプライバシーを守りたい」と、利用者から意見があつたので、2人部屋全てに仕切りのカーテンを取り付ける。

②玄関

140名の利用者の下駄箱から、夏場だけでなく、ほぼ1年中異臭があった。消臭剤の散布、下駄箱のドアの開放を実施するが効果はあまりなかつた。

靴を洗う事で臭いが消えるとの意見から、屋上に洗濯機と洗い台を設置する。靴洗用の洗剤、ブラシ、靴専用干しなども用意し、靴洗い週間（習慣）を設け実施した。

実際に1週間に平均4～6名の利用者が靴を洗うようになった。

③屋上

次に広い屋上の使用方法についての意見が出る。そのため、屋上に関するアンケートを実施する。

- ・屋上で盆踊りの練習をかねて縁日を企画。

④その他

- ・茶話会で進歩状況を利用者が発表。

《まとめ》

これからも利用者の意見、気づきを大切にしながら、居心地の良い生活の場を作っていく。「^{とも}に生きる」を利用者、職員と実践して行きたい。

《提案と発信》

現在、養護老人ホームの在り方が問われており、これからいろいろなニーズをもった利用者が入所されてくる。そういう中で、入所された利用者が生き生きと、自分らしく生活できる場所として、利用者・職員と^{とも}にチャレンジして行きたい。

【メモ欄】追加資料 有 空欄

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。